

統計検定を利用した統計教育の改善について

立教大学 山口誠一

立教大学 山口和範

立教大学 門田実

大学での統計教育が徐々に変化している中、その教育の成果を検証することは極めて重要である。学部における統計教育の成果の検証方法の一つとして「統計検定」という全国统一試験がある。実際、統計検定創設の経緯（2012）には、次の記述がある。

統計教育への要望と期待が高まる中で、教育の成果を評価する仕組みが重要になります。

2011年に発足した「統計検定」（2級）は、まず大学における統計教育の成果を測り、統計分野の学士力を質的に保証する手段として構想されました。（統計検定創設の経緯（2012）より）

現在では、統計検定2級試験は6月と11月にのみ実施されている紙媒体の試験と、コンピュータを使って受検するCBT（Computer Based Testing）方式があり、受験可能日も受験方法も多様になっている。統計検定は徐々に社会に認知されてきており、紙媒体の2級試験受験者数も、統計検定が始まった2011年は346名だったが、2018年は6月と11月を合わせて3428名となっている（統計検定ホームページ「受験データ」より）。

2012年に組織された「統計教育大学間連携ネットワーク（JINSE: Japanese Inter-university Network for Statistics Education）」の後継組織として、「統計教育連携ネットワーク（拡大版JINSE）」が2017年に設立され、拡大版JINSEを構成する会員には、通常の統計検定と同一の問題を用いて行われる「JINSE版統計検定」を利用し、JINSE版統計検定運用規程（2017）で定められた受験資格対象者の詳細な受験データが会員に提供され、統計教育の改善に利用することができる。

本稿では立教大学における過去のJINSE版統計検定2級試験の学生の結果から、学生の理解度が低いと思われる項目等を紹介し、どのような対策が必要かなどの統計検定を利用した教育改善について述べる。また、統計検定の受験対策コンテンツ等の、立教大学における統計教育についても言及する。

参考文献

[1] 統計検定創設の経緯(2012),

<http://www.toukei-kentei.jp/wp-content/uploads/sousetsu.pdf>

[2] 統計検定ホームページ「受験データ」,

<http://www.toukei-kentei.jp/past/>

[3] JINSE 版統計検定運用規程(2017),

http://qajss.org/jinse/jinse_kentei_20180227.pdf